

南富士産業

人材紹介、中国で本格化

上海に現法設立 幹部候補の需要狙う

住宅工事の南富士産業（静岡県三島市、杉山定久社長）は中国・上海に現地法人を設立し、日系企業の営業支援事業を積極化する。南富士産業の中国事業を新会社に移管。中国に進出したがノウハウを持たず販路開拓などに悩む日系企業に、中国人の幹部候補を紹介する事業などを通じ、現地の優秀な人材確保を望む国内企業を取り込む。自動車関連など製造業の中国進出が相次いでおり、中国人の幹部候補の需要は高いと判断した。

新会社「万克徳商務諮詢」は今月中旬から営業を開始。中国人の人材紹介など従来、南富士産業が手がけた事業を譲り受ける。資本金は約千六百万円で南富士産業が全額

出資した。董事長には杉山社長自身が就く。新たに展開する事業では将来性や実力はあるが、業績が伸び悩む日系企業に、若い中国人のMBA取得者などを幹部として派遣する。

中国人は経営者、従業員から会社の問題点などを聞き取り、経営改善を進める。幹部の辞職勧告や若手人材の登用など、外部の目からみた思い切った施策で一年程度かけた経営を軌道に乗せる。

成功した場合、新会社に最終利益の二割程度を

払う「成功報酬制」をとる。派遣された中国人には日系企業からの給与のほか成功報酬の一部が入る。当初、日系企業は事前調査にかかる交通費など、必要経費のみを新会社に支払う。

現地で思うように事業が展開できていない日系企業が経営を軌道に乗せるには、中国の事情に明るい中国人幹部が必要という。幹部を日本人から中国人に置き換えることで、給与コストが下がるメリットもある。まず一社の日系企業の支援を進めその後、数社に広げる。

南富士産業が従来手がけてきた、経営が順調な日系企業に会員制で中国人の幹部候補を紹介する事業も積極化。中国人からの応募は年々増えているといい、候補者の質を高め紹介人数を今年の五十人から増やす。会員企業は現在の三十社から、早期に五十社程度に増やす方針。